

## 区民と区長のタウンミーティング概要

日 時	令和3年4月11日（日） 10時30分から12時
会 場	東部区民活動センター 洋室3・4
テ ー マ	中野区基本計画（素案）・中野区区有施設整備計画（素案）について
出席者 区 民	計29人
区 側	区長、企画部長、構造改革担当部長、子ども家庭支援担当部長、企画課長、基本構想担当課長、財政課長、保育園・幼稚園課長、中部すこやか福祉センターアウトリーチ推進担当課長
一 時 保 育	無
手話通訳・要約筆記	無

区長あいさつ	
<p>本日は、基本計画・区有施設整備計画の素案に関する意見交換会である。3月に区議会での議決を経て、中野区において最上位に位置する基本構想を改定した。基本構想の中では、まちの将来像として「つながる はじまる なかの」を掲げている。中野区では、人と人とがつながり、新たな価値を生み出していくことを大切にしたいと考えている。</p> <p>その基本構想を実現するための計画が、基本計画及び区有施設整備計画である。基本計画は、将来人口推計や財政見通しを踏まえ、区が取り組むことを体系的に示している。中野区の総人口は、2035年をピークに、その後は減少に転じる見通しである。また、高齢化が一層進展し、65歳以上の人口は増加傾向が続く。そうした中でも行政サービスを維持していく必要があると考えている。</p> <p>区有施設については、現在、築50年以上の建物が全体の約3割を占めるなど、老朽化してきている。子どもの数の減少に合わせて学校の統廃合を行ってきたことにより、学校数は減ったが、施設については老朽化している学校が多い。学校施設の建替え等については、未来ある子どもたちの施設であるため、最優先で行っていく必要があると考えている。ただ、学校だけでなく、これから更新する必要がある施設は多くあるが、財政見通しを考えると全てを更新することはできない。財政の見通しを立て、10年後を見据えた上で、長期的な視点も持って施設の更新を進めていきたい。</p> <p>本日は、区政に対して、皆さんが日頃感じていることについてのご意見などもいただきたい。</p>	
区民の意見・質問	区長の回答等
基本計画の内容とSDGsのゴールが合致していると良いのではないか。	SDGsを意識しながら、取組を進めていきたい。
財政見通しについて、基準となる一般財源規模が2021年以降、毎年687億円となっているのは、なぜか。	一般財源は令和4年度以降微増傾向を見込んでいるが、新型コロナウイルス感染症の影響により、経済の見通しは不透明であり、下振れリスクもあることから、現時点においては、基準となる一般財源規模を687億円に設定して財政運営を進めていく考えである。しかし、区を取り巻く社会経済状況が大きく変化した場合などは、実態を踏まえて見直しの検討を行う必要もあると考えている。
子どもは高齢者に活力を与える存在だと思うので、多世代交流の視点から、子どもから高齢者まで多世代が触れあえる場が必要だと思う。	中野区では、子どもから高齢者など、すべての人に対する地域包括ケア体制の実現を目指している。多世代の交流は大切だと考えており、多様な世代が利用できる機会を設けていきたい。
商店街について、駐車場や多目的トイレ、授乳スペースなどがあると、誰もが利用しやすくなり、魅力が高まると思う。	商店街の活性化について、駐車場や授乳スペースなどの設置に係る支援を行っているところであり、今後も制度活用について、積極的に周知を図っていきたい。
東部区民活動センター圏域は、14の町会があり住民が多い。城山ふれあいの家は、乳幼児親子から高齢者、中高生、町会の活動の場となっている。ふれあいの家は児童館とは別に考え、東部区民活動センター圏域については、文園児童館と城山ふれあいの家を残してほしい。	廃止後の跡施設活用については、区有施設整備のほか、地域交流、多世代交流や子ども子育て家庭の居場所などの機能を備えた民間の児童福祉・介護・障害福祉等施設の誘致を検討する。それまでの期間は、地域団体等への開放や民間事業者等への貸付など暫定的な活用を検討する。
昭和区民活動センター圏域においては、昭和区民活動センターや新しいすこやか福祉センター、桃園第二小学校といった施設に関する課題が多い。地区の施設協議会を立ち上げ、エリア全体を住民と行政が協議してはどうか。	地域住民の意見を踏まえた、地域住民に使ってもらえる施設にしていきたい。また、利用者や地域の意見を聞きながら今後どのように進めていくか検討していきたい。

区民の意見・質問	区長の回答等
<p>地域開放型学校図書館について、建物の構造上、地域に開かれていると感じられない。また、キッズ・プラザは、高学年が授業している間は、校庭が使えないなど、過密な状態になっている。地域開放型学校図書館のあり方を検証し、効果がなければ廃止し、子どもたちが使えるスペースを広げてほしい。</p>	<p>地域開放型学校図書館については、蔵書数や開館日が少ないなど、課題があると考えている。今後、検証し、判断していきたい。</p>
<p>児童館の廃止後の施設は、地域の人が誰でも使えるものにしてほしい。</p>	<p>今後の施設は、誰もが使えるようなものにしていきたい。例えば、民間の施設でも、地域の人が交流できる部屋を備えて実際に活動が行われているところもある。民間の施設においても、そういった場が確保できるよう、検討していく。</p>
<p>白桜小学校は児童数が増加しており、同小学校内のキッズ・プラザは過密な状態である。設置後にスペースが足りているか検証してほしい。また、近隣にあったU18プラザは廃止され、小学生の居場所が減った。地域の10年後を見据え、必要な施設は残してほしい。</p>	<p>キッズ・プラザについて、運営面からも改善を図っていきたい。新たな機能を備えた児童館において、多様な地域のニーズに対応していきたい。</p>
<p>年齢の離れた子どもたちを連れて行ける子育て施設が不足していると感じる。新型コロナウイルス感染症の影響で、更に子育て家庭の居場所が不足しているので、充実してほしい。</p>	<p>地域子ども施設のあり方検討の中において、子どもの居場所の拡充を検討していく。</p>
<p>区立小・中学校では、外国人の家庭が増えている。ハラルに対応した給食や、PTA活動でコミュニケーションが取りにくいといったことに対して、区が支援してほしい。</p>	<p>外国籍の子どもが増えている現状に対し、日本語指導員等の派遣や外国語による就学のご案内作成などの対応を行っている。今後、どのような取組が必要かという点についても引き続き検討していきたい。</p>
<p>行政サービスの電子化については、環境への配慮にもなるので、進めてほしい。デジタルトランスフォーメーションについて、具体的にどのようなことを行っていくのか。</p>	<p>デジタルトランスフォーメーションについては、新区役所の整備にあたって、ペーパーレス化に取り組んでいるほか、会議の実施についても、インターネットを使ってできるようにするなど、積極的に行っていく考えである。現在、地域情報化推進計画の策定に向けた検討を進めており、区だけでなく、地域全体でデジタルトランスフォーメーションをどのように進めていくか、計画で示していきたい。</p>
<p>災害対策として、行政と区民とが災害に対する危機感を共有するため、ハザードマップに、想定される避難者の数など、具体的な被害想定を記載してほしい。</p>	<p>災害の規模等で避難者数に変動はあるが、基準となる被害想定について、記載できるよう検討していく。</p>
<p>発災時の輻射熱による被害を防ぐための対策を検討してほしい。</p>	<p>減災について、今後も、検討していきたい。</p>
<p>中野区内には出産に対応した医療機関が少なく、出産費用に関する助成がないなど、子育てしにくい状況だと思うので、子どもを産み、育てられる環境を充実してほしい。</p>	<p>妊娠出産トータル支援事業を拡充するなど、産前・産後期のケアについてのサービスの充実を図っているところである。子どもが健やかに育ち、子育てする上で必要な環境を整備していきたい。</p>

区民の意見・質問	区長の回答等
「施策25 子育て家庭にとって魅力的な空間・施設等の充実」の「子育て家庭にやさしい店舗の充実」に記載されていることのほか、どういった取組を想定しているのか。	取組の一つとして、駅前のまちづくりを進める中では、子育て世代をはじめ、あらゆる世代の方々にとって、利用しやすく魅力的な商業施設等を誘導していきたいと考えている。
高齢者会館機能のある城山ふれあいの家やみずの塔ふれあいの家は、介護予防の重要な拠点となっている。児童館とふれあいの家とは、別に考えてほしい。	今後、キッズ・プラザ、学童クラブ、児童館、中高生向け施設等の整備・再編や子育てひろば事業の充実などを進め、地域の中で安心して、子育て・子育てができるための環境を充実させていく。
児童館は月曜日が休みとなっているが、月曜日から土曜日まで開館してほしい。児童館は、多世代の活動の場となっており、学校内のキッズ・プラザは代替にならないと思う。また、児童館は直営で館長を含め6名の専任で運営してほしい。	新たな機能を備えた児童館においては、運営形態や開館日を増やすことについても検討していきたい。
東中野駅、中野坂上駅、新中野駅の周辺について、官民一体型の再開発の予定はあるか。	現在のところ予定はないが、今後、地域における民間開発の動向に注視しながら、民間開発の誘導によるまちづくりについて検討していく。
銭湯などの入浴施設がない地域の一人暮らし高齢者は不便な暮らしをしている。また、中部すこやか福祉センターで良い事業が行われていても、遠くて通えない高齢者もいる。高齢者が住みやすい環境を整えてほしい。	高齢者が地域で暮らしやすい環境を、行政だけでなく、民間も含めて充実させていくのが、地域包括ケア体制の実現だと考えている。一人暮らし高齢者に向けた支援の充実について、更に検討していきたい。
高齢者会館機能のある城山ふれあいの家やみずの塔ふれあいの家は、介護予防の重要な拠点となっている。児童館とふれあいの家とは、別に考えてほしい。	今後、キッズ・プラザ、学童クラブ、児童館、中高生向け施設等の整備・再編や子育てひろば事業の充実などを進め、地域の中で安心して、子育て・子育てができるための環境を充実させていく。
新型コロナウイルス感染症の影響で、体力や認知機能が低下した高齢者が増加していると感じるので、「1区を取り巻く社会状況等の変化」の「(5)新型コロナウイルス感染症の影響による社会の変化」に、介護予防を盛り込んでほしい。	介護予防については、重要性は認識しており、感染症対策を講じた上で、介護予防事業に取り組んでいく。
中野区では、保育園や学童クラブの待機児童が発生しており、働きながら子どもを育てるのが難しい状況であるため、改善してほしい。	区内で待機児童が発生している地域について、今後、定員を増やしていく予定である。早急に対応していきたい。
不妊治療費助成を拡充するなど、子どもを産む前の支援についても充実してほしい。	不妊治療費助成については、令和2年度に拡充したところである。今後も、子どもを産む前の家庭への支援を行っていく。
中野区の住宅は高額であり購入するのが難しい。空き家の活用や運用していない土地を住宅にするなど、区としても対策を講じてほしい。	中野区など都市部における空き家の多くは、市場に流通され利活用が図られている。一部には様々な問題により空き家となっているものもある。そういった空き家が管理不全に陥らないよう、区は相談や予防啓発を行っており、さらに民間団体と連携し、より相談体制を強化することを検討している。
基本計画において、対話の区政を強調しているが、区長のトップダウンが必要という時には、強いリーダーシップを発揮してほしい。	早急に進めるべき事項については、責任を持って取り組んでいきたい。

区民の意見・質問	区長の回答等
<p>区有施設整備計画について、バランスに応じた配置について、区民ニーズをどう捉えていくのか。</p>	<p>意見交換会やパブリック・コメント手続を実施し、ご意見を伺いながら、施設配置について検討する。</p>
<p>中学校区に1か所残す児童館について、地域の中で争いが生じないように、配慮しながら進めていってほしい。</p>	<p>地域に納得していただけるよう、丁寧に進めいく。</p>